



岡田

ふるさとの やさしさを
たくわえて 志高く生きる
岡田の子

舞鶴市立岡田小学校
学校だより
令和5年5月31日

互いのよさを認め合い活躍できる集団

つばめが校舎の周りを飛び交い鳴く声や山の方から聴こえる小鳥のさえずりを聴きながら校庭に目を向けると元気に遊ぶ子どもたちの姿が見られます。いよいよ明日から6月。暑さと雨が心配な季節になってきました。

学校では、5月24日に緊急時避難訓練を行い、大雨警報が発令され緊急下校になった場合の行動について全校で確認しました。一刻も早く、安全に帰宅するためには、みんなの協力（静かに集まり、指示を聞いて行動）が必要であることを子どもたちに伝えました。子どもたちは真剣な表情で聞いていました。命を守る学習はこれからも大切に進めていきます。

ところで、新型コロナウイルス感染症も5類に移行され、学校教育活動もそれに伴う安全対策を取りながら活動制限の緩和を進めています。その中の一つが異年齢活動。仲良し班活動です。

1年生から6年生までの児童10~11人1グループの異年齢班で、6年生の班長が中心となり活動を行います。4月に班の顔合わせを行ってから、5月には茶摘み、遠足、児童会の取組「全校遊び」を行ってきました。この時は、6年生のみんながリーダーにならなければなりません。自分たちで作った仲良し班の旗を持ち、引っ張っていきます。

5月の茶摘みでは、茶畑までまだ歩くことに慣れない1年生を優しくリード。茶摘みが始まると、「どれを摘んだらよいの」という質問に答えて一緒に活動。今までであれば、自分のペースで活動できていたことも、異年齢活動ではそういうわけにはいきません。してほしいことが上手に伝わらず、つらいこともあるでしょう。しかし、冷たい言葉かけは見られません。経験の中で上級生も下級生も互いにいろいろなことを学んでいくのだと見守っていました。



また、5月中旬からは、仲良し班掃除を始めました。割り当ての場所をきれいにするためには一人一人が責任を持って行動しなければいけません。仲良し班掃除では、特に中学年の子供たちがよく頑張っているようです。低学年の手本になるべく、学年での活動ではなかなか見せなかった「できていないところを見つけて、率先して掃除をする」という姿を見せています。立場が人を育てていくのかもかもしれません。

一人一人のよさをその場その時に認め、声掛けをすることが一人一人の自信につながるのだと考えます。声を掛けられ認められることで、そこでの自分の居場所を実感します。居場所があり安心だと感じる事ができた時に、友達のよさも見つけられるのではないのでしょうか。

一人一人違います。だからこそ、62名の児童が互いのよさを認め、大切にされていることが実感でき活躍できる集団に。スタートは居場所がある安心感。

つながり・輝く居場所がある学校の中で、強さと優しさ、しなやかさを持ち、困難なことにも前向きに行動できる力を身に付けさせる教育。つまり「人を育てる」という教育の根本を忘れず保護者・地域の皆様にお力添えをいただきながら、全教職員で教育実践を続けていきたいと思えます。

これからもよろしくお願いたします。

舞鶴市立岡田小学校 校長 森 祐子

岡田小学校は地域や専門家にお世話になり学習をすることがあります。先に載せたお茶（4年）だけでなく、万願寺甘とう（2年）、緑のカーテン（4年）、アユの放流（3年）等、たくさんの方にお世話になり「本物」から学ぶ活動を行います。教科書やインターネットでは学べない、土や水、植物や生き物に直接触れながら感覚とともに学ぶ学習は理解も深いものになります。次は地域の方と花いっぱい運動。1・2年生は楽しみにしています。

HP 順次更新中

okada-maizuru.edumap.jp

QRの読み込みOK



豊かな学びを創り、ともに育つ学校
岡田小学校

加佐中学校区 目指す子ども像

「ふるさと加佐を愛し、夢・未来に向かって歩み続ける子ども」

学校教育目標

「10年間を見通した確かな学力と豊かな人間性の育成」